

令和3年度研究公正ワークショップ

研究公正に関する ヒヤリ・ハット事例に学ぶ

参加費 無料

日時

第1回 2/25 金 13:30~17:30
2022年

第2回 3/17 木 13:30~17:30
2022年

※各回の内容は同一です。

1つの重大事故の陰には29の軽微な事故と300の事故には至らないヒヤリとした・ハットしたできごとがあるとされており(ハインリッヒの法則)、様々な組織で事故防止のために、ヒヤリ・ハットの段階で情報を共有し、対策が講じられています。研究不正においても同様で、研究不正に至ることなく踏みとどまれた好事例において、どのような状況において、どのような思考・会話・助言があり、思いとどまることができたのかを知ることは、研究公正のために非常に有用であるはずで

す。本ワークショップでは、研究倫理教育の実施や企画に携わる方がヒヤリ・ハット事例についての考察や議論を行い、研究公正についての新たな気づきを得て、より深く学ぶことを目指します。

定員

各回 80 名程度
(8 名 × 10 班等のグループ分けを予定)

対象者

研究倫理教育を実施する大学教員
企画を行う担当部門の責任者
※職務上の行為として研究倫理教育に携わっている方、
これから携わる予定の方を対象とします

開催形式

Zoom を用いたオンライン形式

ファシリテーター

片倉 啓雄 (関西大学 化学生命工学部 教授)
岡林 浩嗣 (筑波大学 生存ダイナミクスセンター 講師)
金井 康郎 (田辺三菱製薬株式会社 創薬本部 主幹)

プログラム

講演 研究公正に関するヒヤリ・ハットとは (web にて事前に聴講)
グループワーク① 仮想ヒヤリ・ハット事例における相反問題
(ジレンマ状況)の検討
グループワーク② 仮想ヒヤリ・ハット事例の分析
議論の共有

お申し込み・お問い合わせ

右記サイトよりお申し込み・お問い合わせください。

※先着順に受付、各回の定員に達した場合、参加登録を締め切ります。
※ワークショップのご参加にあたっては、講義ビデオの事前聴講や、事前課題への取組をお願いしますので
あらかじめご準備ください。事前課題は開催の約 2 週間前の送付を予定しています。
十分に時間をかけて取り組んでいただくために、早めのお申込みをお勧めします。
※また、経験者の方にはグループワークでの司会をお願いする場合があります。
※なお、仮想ヒヤリ・ハット事例は昨年度と同一のものを使用して議論を行います、
昨年度参加された方もお申し込みいただけます。

問い合わせ先(受注会社)：EY 新日本有限責任監査法人
メールアドレス：RCR2021@jp.ey.com



<https://entry.convention.co.jp/amed-workshop>

参考資料

AMED 「研究公正に関するヒヤリ・ハット集」



主催



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development